

愛南町緑・一木窯関連遺物調査報告

第1章 はじめに

緑・一木窯は愛媛県南宇和郡愛南町緑に所在する連房式登窯跡で、同窯を含む御荘焼 4 窯跡(長月、緑・岡、緑・一木、豊田)に関連する「採集資料」「伝世資料」は、町内在住藤田儲三氏の個人コレクション「南歴文庫」に保管されている。

著者は同文庫長藤田儲三氏の御厚意により、平成 27 (2015) 年 5 月 15 日から平成 28 (2016) 年 3 月 28 日まで延べ 28 日間、調査(観察・実測・写真撮影)をさせていただき、その後、平成 27 (2016) 年から令和 6 (2024) 年にかけて、何度か中断しながら「実測図・写真の整理」「デジタル合成」「版下の作成」「原稿執筆」を行い、令和 7 (2025) 年 6 月、緑・一木窯の報告がようやく完成した。

なお、本報告においては、人名、参考文献名は太字を用い、特に重視すべき箇所については、下線を配している。

第2章 先行研究

・現地調査

南歴文庫長藤田儲三氏は、複数回、緑・一木窯跡に赴き、陶磁片を採集していて、採集品の中には、採集日の書込み(※昭和 46, 11, 14 46, 11, 17 46, 11, 23)を有するものがある。また、旧家所蔵伝世品の調査も実施している。

吉田忠明氏は著書「南予地方の焼き物 ― 御荘焼」『愛媛の焼き物』平成 7 年 7 月 愛媛文華館(以下「愛媛の焼き物」と略)の中で、緑・一木窯の窯跡略図、採集遺物写真を付した以下の調査報告文を記している。

山の斜面に窯跡がある。この窯は一木谷窯と呼ばれており、明治七年ごろに金平金太郎が築いた窯である。この窯跡は、昭和四十年代になって発見されたため、それ以前の文献には記述がない。窯跡は破壊され、畑に開墾されているが、畑の隅に窯壁の一部が残っている窯の規模も小さく、焼成期間も短かったためか、物原陶片も多くない。物原には、改良呉須を用いて濃紺色に発色させた印判手の茶碗や小皿が多くみられる。

・関連資料

「愛媛の焼き物」に緑・岡窯に係る最古資料(明治中期編纂)である「宇和島・吉田勸業制度」に「久治兵衛は長月に天保九年に開窯し、安政三年に僧都村から良砥が出ることを聞き尋ね、これを得て焼き物に使用したところ従来の製品より品質が良くなり、安政五年には藩庁から資金の貸与を受け、製造場を建築した」ことが記されているが、緑・一木窯の記述はない。

昭和 13 年に刊行された菅 菊太郎 「第三十四章 長月焼の由来(久治兵衛焼とも云う)」 『南宇和郷土史雑稿』 愛媛県立南宇和農業学校校友会 昭和 13 年 4 月 8 日で菅氏は、緑・岡窯の興亡を以下のように記しているが、やはり緑・一木窯に係る記述はない。

天保九年(紀元二千四百九十八年)久治兵衛は(中略)唐津山に一大製造所を築き(中略)製造を始めたのである。(中略)十年も立たぬうちに、大資産をつくり、土地の人にも金の融通をする様になった。しかるに彼の富強をねたむ部落民は、工場の煤煙が農作物を害するなど云って、度々中止をせまり、種々の迫害を加えた。そこで久治兵衛は、止むを得ず窯を閉じて緑村へ移住した。(中略)久治兵衛は長月の財産を売り払い、流浪の身となつてゐたが、安政三年三十歳の時再び窯を興した。けれ共数年の休と転宅、建築等に多くの費用を徒消し、貸金は集らない為、甚だ苦しい家計に陥った。これを耳にされた藩主宗城公(第八代)は、産業の奨励をなしてゐた時であるから、安政五年三月彼を宇和島に呼び、銀札二十貫匁を資本金として貸し与えることとした。(中略)久治兵衛七十の坂を越えて後、或事情のため窯を早崎氏に譲り、隠居して養子和三郎には他の職に就かしめゐた。

吉田氏は「愛媛の焼き物」の中で、御荘焼生産の中心的役割を行った「富岡喜内(九治兵衛)」の子孫富岡家に残された文書類も参考にして「御荘焼」の概要をまとめられていて、緑・一木窯の興亡については「九治兵衛は安政五年(1853)に緑・岡窯を開窯したが、明治七年(1874)に早崎弁次に窯を譲っている。その時、同窯の陶工であつた金平金太郎が独立して、緑・一木窯を築窯したと考えられるが、短期間で廃されてしまった」とされている。

南歴文庫長藤田儲三氏は、御荘焼研究報告を以下の通り行っているが、その中で緑・一木窯のことにも触れている。

「史談 御荘焼の歴史」[緑一木窯](現城辺町緑)『U- ゆう - いよ とさ ふるさと会報』 平成 4 年 2 月 20 日

「九治兵衛が長月より一山越えて窯を築いた所が緑一木谷で、昭和 39 年ごろ、御荘焼としては最後に発見され、二神彰次郎氏と筆者が発表した窯である。陶片で見ると長月と同じ陶石、呉須、うわ薬を使っているようであるが、窯は極く短期間で閉じられているようである。

明治になって再興し、輸入コバルト使用の隅切り角皿や雑器類を焼き、豊田窯と同一の印判物が多いようである。
またアゴヨシ（義明？）という砥部から来た陶工が、城辺町緑にある埴下本家の部屋で焼締の陶器を作り、この窯で焼いているが、煎茶器など見事なものがある。

最後の陶工は、金さんと呼ばれた金平金太郎で、飯碗や皿の下手を昭和初期まで、担って売り歩いていったという。
「町指定有形民俗文化財 御荘焼資料（有形文化財） 御荘焼長月窯跡（史跡）御荘焼一木窯跡（有形文化財）御荘焼早崎窯跡（有形文化財）御荘焼豊田窯跡（有形文化財）」『愛南町の文化財』愛南町教育委員会 平成 21 年 3 月 5 日

緑一木窯の陶片は非常に少なく、短期間で岡窯に移ったのではないと思われる。一木窯と岡窯の製品は、形・絵付けが非常に似通っているのが特徴である。

その後、緑一木窯は衰退するもの、明治に入って再び窯を興し、昭和初期まで角切り角鉢や雑器類を焼いている。
「緑・一木窯(城辺町緑)」 『愛南町文化財 御荘焼』 南宇和歴史民俗文庫
緑の豪農埴下の援助で築いた窯で、明治 7 年 5 月に初窯を出し、製品は岡窯とよく似ています。明治 35 年頃に一時絶え、大正末期か昭和初期より金平金太郎によって、印判の下手物が焼かれています。

「御荘焼と陶祖久治兵衛」 『南予の文化 第 8 号』 平成元年 3 月 23 日
生産は順調に進んだが、地域住民とのトラブルがおき、窯を廃し、安政三年(1856)年、緑一木谷に窯を興した。その後、緑岡に移り、屋号を大黒屋と称した。陶石やうわ薬用のユス灰は僧都のものを馬で運ばせて用いた。

「御荘焼メモ」 日本民俗学会員
5. 御荘焼の(陶工)経営者の項目に開祖「紋之助」の後継として「金平金太郎」(明治元～昭和 15 年)が記されていて(明治末に一時廃業、後復興、昭和初期廃業)という説明が付される。

6. 御荘焼の窯には、
* 菊川窯(不明)陶器窯？
長月窯(天保 9 年 1838～)→一木(谷)窯(安政 3 年 1856～)→岡(早崎)窯(安政～大正)→豊田(シヤカダバ)窯
→一木(谷)窯(カメタ屋敷)(明治 7 年～昭和 9 年)

以上のことが記される。
野平啓真氏「御荘焼考」『愛媛の文化』2 号 愛媛県文化財保護協会 昭和四十年八月二十日
(中略)長月を追われた九治兵衛は隣村緑に移転再び窯を築いたのであった。即ち現在のこる一木谷窯と緑岡前(早崎窯)とがそれである。だがここでも庄屋尾崎弥内や村人の圧迫を受け、職人金平金太郎や早崎なる職人に窯を譲りほど近い豊田に移転、九治兵衛晩年に近い明治中頃迄生涯を郷土の窯業にささげたのである。

永田政章は「伊予の陶芸(一)」 『愛媛の文化』創刊号 愛媛県文化財保護協会事務局 昭和四十年四月一日
序説 ◎菊川焼 正確には長月窯と呼ばれ、初代の名衛を冠して久治兵衛焼とも云う。更に近年は研究者の間で「御荘焼」とも称せられる。南宇和郡御荘町大字長月に開業し、後、同郡城辺町大字緑西柳井に移り、三転して末期には城辺町釈迦駄場に築窯していた。

以上、緑・一木窯の関連資料を取上げたが、長月窯の次に開窯したのが、緑・一木窯なのか、緑・岡窯なのか意見が分かれている。吉田氏は緑・一木の開窯は明治七年ごろとされ、藤田氏が同年開窯を記した報告もあるが、窯主である金平金太郎の詳しい出自や運営実績、稼働期間に係る情報は少ない。

吉田氏は、九次兵衛(富岡喜内)が築いた生涯三か所(長月窯、緑・岡窯、豊田窯)の開窯時期や稼働期間は資料によって異なっていることについて「愛媛の焼き物」の中で「御荘焼に関する史料が乏しく、史料のない期間を推測で埋め合わせているため」と記している。
以上の先行研究を踏まえ、第 3 章では採集、伝世史料の考古学的分析を行い、窯の活動期間を明らかにすることを目標としたい。

第 3 章 遺物各説

第 1 節 採集資料

資料の大半が「染付碗」「染付皿」で「その他器種」は僅かである。技法として「手描き」「印版手」「クロム青磁」「銅板転写」の 4 種があり、資料の多くには、砥部に明治 8 年(1875)に技術がもたらされたとされる西洋コバルトが用いられるが、窯跡採集品の中には「天然呉須」を用いるものも僅かにある。明治 11 年(1878)頃に砥部に導入されたとされる「印版手」(註 1)も見られる。なお、第 2 章同様、特に重視すべき箇所については、下線を配している。以下の写真、図版の縮尺は同一ではない。

なお、個別資料の特徴、製作技法については採集資料、伝世資料とも遺物観察表に記している。

(1) 染付碗 ・ 印版手碗

図版 1-1(以下 1-1 と略)は印版手染付筒碗で見込は花輪文、外面は渦巻羊歯の地紋に「壽」「福」字が記される。5-56 は端反碗であるが、同じ型紙を用いている 1-1 と文様が共通する。27 は印版手の染付碗で窓を二重破線で縁取る。

4-46 は印判手染付の端反碗で外面の上部は青海波、松文、下部は花文で、中位の空白部は破線で縁取られ、連続する「千鳥」が描かれる。6-70 は端反碗で外面の文様は 4-45 と共通するが、見込の花文は違いがある。4-47 は印版手染付端反碗で、内面に蛇目状露胎があり、外面は「鶴」「花(2種)」からなる文様があるが、文様途切れている部分があり、作りが雑である。



4-48 は全体に歪んでいて、外面に「富士山」の文様を描く。8-77 は高台が狭く、口縁が開く飯碗である。窓は破線で縁取られ、「竹」「花」が描かれる。

印版手の文様は、型紙の種類が多く多様であるが、当該資料においては筒碗(1-1)と端反碗(5-56)に同じ型紙が用いられること、窓絵や空白部の縁取りには二重破線と破線がある。

・手描き碗

1-10、11、3-41 は筒碗で、外面の三分割の文様、見込の蛇目状露胎が共通する。1-11 と 3-41 は、底部外面の文様が似ている。5-58 は染付碗底部で、見込に崩れた花輪文を描く。8-79 は染付小碗で見込に「太場？」の文字がある。2-14 は口縁に歪みがある。4-57 は染付碗口縁で外面端部に 4 本の多重圈線を描く、砥部で天然呉須を用いて描かれていた多重圈線文は、明治初期には西洋コバルトを用いて描かれるようになる。4-57 は西洋コバルトで多重圈線文碗を描いていることから、砥部の影響を受けていることが分かる(註2)



・手描き碗(天然呉須)

4-50、51、52、8-88 は緑・一木窯採集品の中では、珍しく天然呉須を用いている。4-50 は波佐見染付碗の混入品と思われる。
 4-51 は外面口縁端部に 7 本の多重圈線を描く端反碗で、1850 年代砥部に出現した文様に類似している。(註 2) 4-52 は外面に不明文様を示す端反碗。8-88 は染付碗で外面の発色の悪い 2 本線の斜格子文を描く。



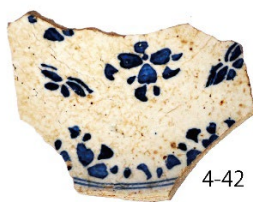
・印版手皿

1-4 は、口縁内面と見込の境は二重破線で区画されている。見込に足付ハマの痕 1 カ所あり、高台内蛇目状露胎。3-29 の口縁内面は破線で縁取られた区画内に「青海波」と「花と蝶」が描かれる。外面は花帯を描き、高台内蛇目状露胎。3-40 は印版手染付稷花皿、内面は地模様に破線で区画された窓絵がある。外面は花帯を描く。



3-39、7-72 は高台内蛇目状露胎、見込は同一の型紙文様で、中央に花文を描き、そこから放射状の二重破線が伸びる。同線に区画された部分には複雑な文様を描く。内面口縁は、3-39 が花文と崩れた竹文、7-72 が破線で縁取られた窓絵で型紙が違い、口縁外面 3 カ所の花帯も型紙が違う。3-39 口縁内面文様と 4-47 口縁外面文様は同種のものである。6-69 見込に窓絵 8 カ所、中央は崩れた松竹梅文、外面花帯 3 カ所、高台内蛇目状露胎。3-42 は内面口縁と見込に花文。4-43 は小皿で、口縁内面に山村文様が 3 カ所。見込に高台痕あり。7-73 の見込はミジンコ地に 5 種の丸文、中央は松竹梅文。呉須がべったり着いている。高台内蛇目状露胎。8-84 の見込は石畳地に白抜きの楓、足付ハマの痕 1 カ所あり、外面口縁花帯、高台内蛇目状露胎。8-85 は内面、松・梅文、二重破線と破線の間に斜線文、外面花帯、高台内蛇目状露胎。3-29、3-39、3-40、7-72、73、8-85 は法量がほぼ同じ深皿で、口縁内面、見込の文様は多岐にわたるが、口縁外面に中心に花がある「花帯」が 3 カ所描かれること、高台内が蛇目状露胎になることが共通していて、同種の皿が量産された可能性がある。また、内面の文様を区画する線には二重破線と破線があるのは、印版手碗と共通している。





8-85

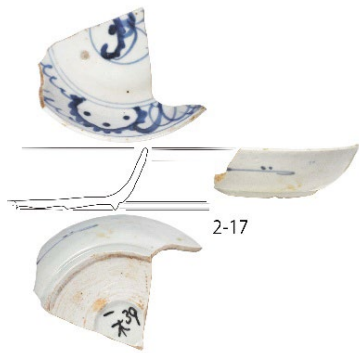
・手描き皿(草花文を描く皿)

1-2 は見込に足付ハマ痕が 2 カ所、口縁端部外反、内面は崩れた草花文。高台内蛇目状露胎。2-17 は口縁内面、水車か雪持ち笹、見込は花文、足付ハマ痕 1 カ所、高台内蛇目状露胎。天然呉須使用。2-20 は内面崩れた花文、見込崩れた花輪文、足付ハマ痕 5 カ所、高台内高台内蛇目状露胎、ワドチの痕あり。2-26 は口縁が外反する腰折れ皿で、内面草花文、中央に「岩波文」の銘有り。

3-32 は口縁内面崩れた草花文、見込崩れた草文、ワドチの痕あり、外面高台内蛇目状露胎、ワドチ痕あり。5-63 は口縁が外反するやや大型の深皿で、内面は草花文、焼成時の割れがある。3-32 と口縁内面の文様が似ている。



1-2



2-17



2-20



2-26



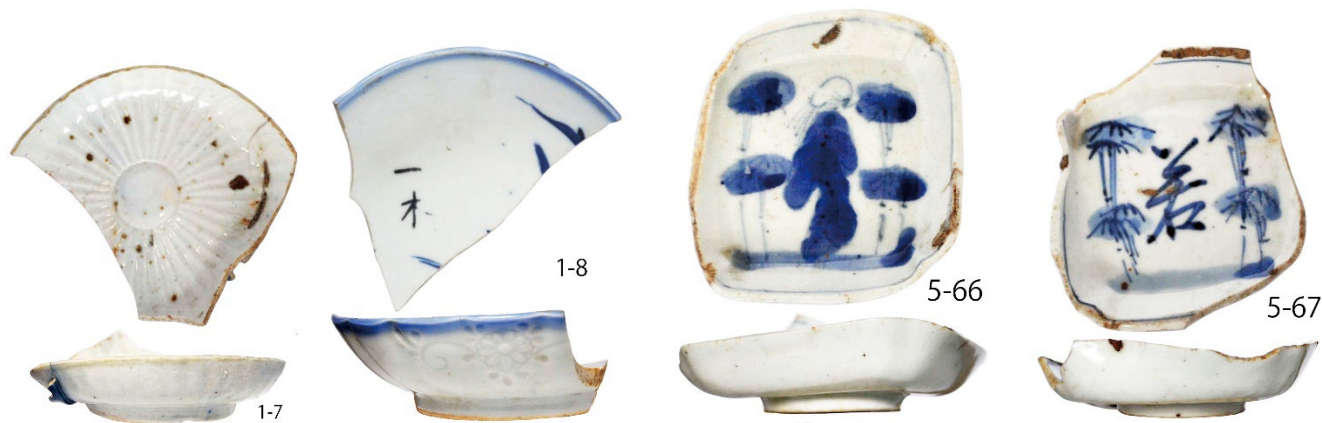
・手描き皿(浦の苫屋文を描く皿)

1-3 は染付深皿である。見込に足付きハマの痕が 2 カ所、崩れた浦の苫屋文を描く。口縁端部はやや外反する。1-5 の口縁が外反する腰折れ皿で、見込は蛇目状露胎、口縁内面は崩れた浦の苫屋文。2-18 は内面崩れた浦の苫屋文、外面高台内蛇目状露胎。2-19 は染付深皿で、内面は崩れた浦の苫屋文、高台内蛇目状露胎。2-21 は見込に帆掛舟を描く、高台内蛇目状露胎。2-22 は見込、浦の苫屋文らしい文様、足付きハマの痕が 2 カ所。高台内蛇目状露胎。2-23 は見込に浦の苫屋文らしい文様、足付きハマ痕が 2 カ所。高台内蛇目状露胎、ワドチ痕あり。3-30 は内面浦の苫屋文、外面、崩れた花帯、高台内、蛇目状露胎。3-31 は見込、浦の苫屋文 足付きハマの痕 2 カ所あり、外面高台内、蛇目状露胎。 3-33 は内面口縁亀甲文、見込不明文様、外面高台内蛇目状露胎。5-65 は染付深皿(腰折皿)で内面は「濃み」べた塗りの浦の苫屋文、外面は崩れた花帯。7-74 は染付皿で、見込に浦の苫屋文、高台内は蛇目状露胎である。

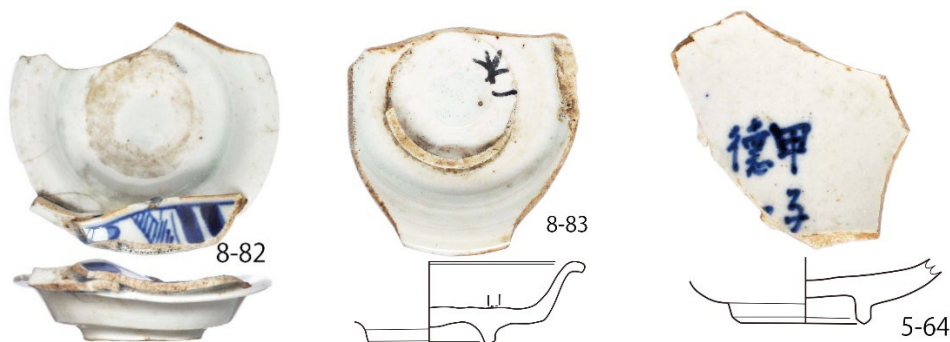


・その他の皿、鉢

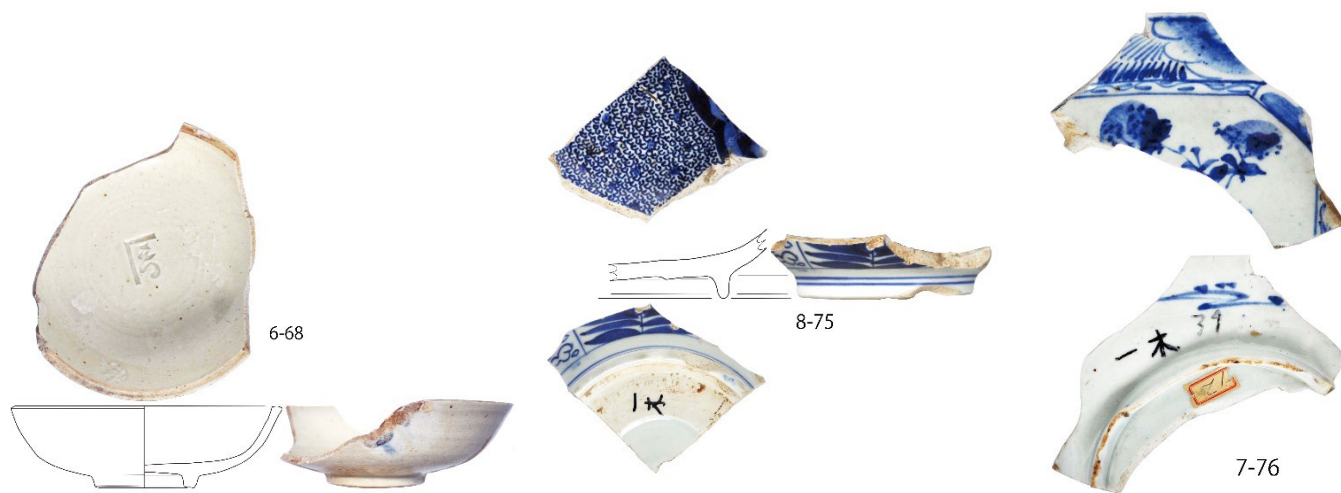
1-7 は型押し作りの白磁輪花皿、高台内蛇目状露胎。1-8 は型作りの染稜花皿で口縁端部、ぼかした呉須の口紅。外面口縁に暗花の花文。5-66 は角皿で簡略化した樹木(竹)に挟まれた中国風の人物が描かれ、5-67 も角皿で竹には挟まれた「若」字が描かれる。



5-66 と 67 は文様配置に共通点がある。8-82 は白磁腰折皿である。見込は蛇目状露胎で、高台痕がある。8-83 は白磁腰折皿であり、見込に高台が熔着している。5-64 は見込に「甲子 徳」の年号があり、元治元か大正 13 の可能性があるが、西洋コバルトが用いられており大正 13 年の可能性が高い。



6-68 は白磁の深皿で見込中央に「カネ吉」の屋号がスタンプされる。8-75 は染付大型皿である。口縁内面は、印版のミジンコ手で外面は手描で区画され羊歯文と花文が描かれる。高台内は蛇目状露胎である。7-76 は染付大型角皿である。口縁は四角形だが、高台は円形である。緑・一木窯跡採集陶磁片の中で、大型角皿はこの 1 点だけである。



・碗・皿以外の製品(猪口、蓋)

1-15 は口縁端部、呉須の口紅、外面、草花文。1-16 は内面竹文で、天然呉須使用。5-59 は印版手で口縁端部、呉須の口紅、外面は花文で「窓」が有る。4-60 は内面口縁端部、太い圈線、外面口縁手描きの市松模様。5-61 は内面見込に不明字有り、全体にひどく歪んでいる。5-62 は、内面不明文様。5-80 は内面口縁端部、太い圈線、二本線で三等分に区画された窓に、松らしい樹木と蝶の文様あり。3-36 は 1 点しかない染付蓋で口縁端部、呉須の口紅、内面見込に崩れた花輪がある。



・鉢(磁器)

1-9 の口縁端部は呉須の口紅、内面は地紋の青海波に挟まれた空白部に「花+羊歯」文があり、見込は二重圈線に囲まれた文様不明、外面は花帯の中央に「石畳+波」丸文が有り、高台内は蛇目状露胎である。7-71 は大型の鉢で口縁端部は呉須の口紅、内面に「青海波+羊歯+牡丹」文有り、見込は二重圈線に囲まれた「三重破線による結紐文」で、足付ハマの痕 4 カ所有り(1 個所は足付着)、外面花帯の中央に「石畳+波」丸文有り、高台内、蛇目状露胎。1-9 の口縁外面の花帯は7-71 によく似ている。1-6 の口縁は外反し、内面は界線に竹文、天然呉須を用いている。4-49 の口縁が多角形状の鉢で内面は界線に「青海波」「窓絵に葡萄」外面も界線に「三宝」「壽字」が描かれる。4-53 は内面に竹文を描く。6-91 は内面に四隅が突出する四目菱、外面に波状文と交点付きの網目文を描く。

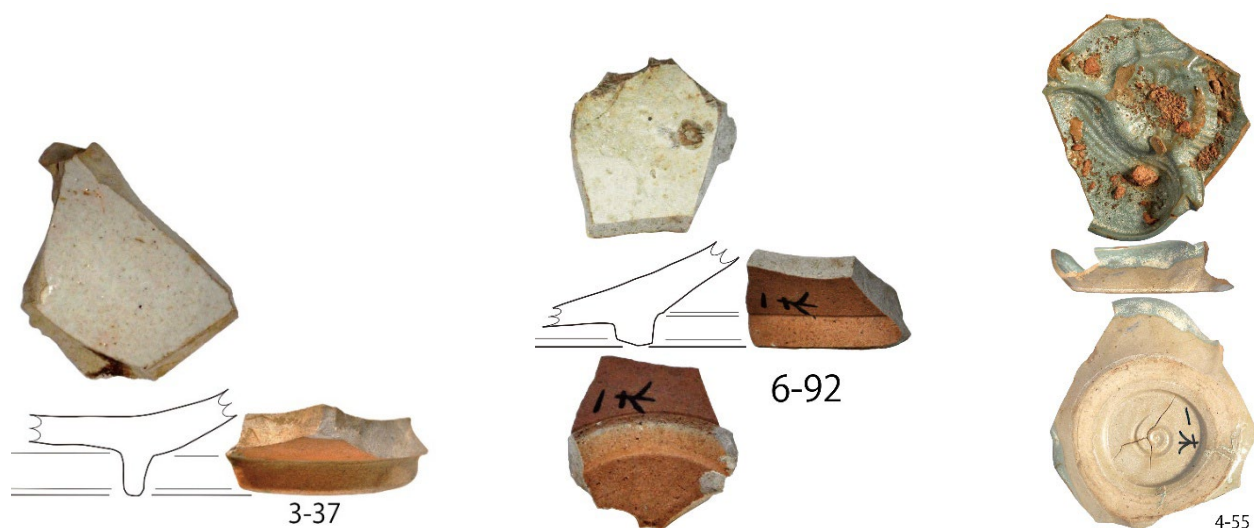


・鉢(陶器) 陶器薬味入れ

3-37 は、大型陶器鉢で、内面は施釉、外面は露胎である。6-92 も大型陶器鉢で内面は施釉、足付ハマの痕 1 箇所所有り、外面は露胎である。釉上からの色味は3-37 とよく似ているが、高台の形状が違っている。

4-45 は薬味入れで、内面と口縁端部外面には、厚く緑釉をかけるが、降灰が著しい、見込中央に花文があり、内面は凸帯で3 区分されている。外面中位から下は透明釉が掛けられる 底部は碁筈底で中心に「渦巻き」が有り、高台内は施釉される。

大型陶器鉢(3-37、6-92)と違い胎土は白くきめが細かく、採集品で唯一緑釉が施釉されるなど「一品物の特注品」であった可能性がある。



銅板転写 クロム青磁

4-54 は銅板転写のスジャク(醤油入れ)で外面に銅板転写で浦の苫屋を描き、裾部に水色の顔料を指している。8-81 はクロム青磁の湯飲で、内面にはクロム釉がかけられ、外面はクロム釉がかけられ、その上に西洋コバルトの印版で草花文がプリントされる。



陶器 スリコバチ 足付燈明台

3-38 手づくね成形でスリコバチと呼ばれるままと道具に似ている。稜花碗状で、高台内に「一風山 清風」の印あり。4-45 は足付燈明台で受け部は欠損している。底部は露胎で糸切痕残る。

第2節 伝世資料

平成 27、28 年に南歴史文庫所蔵品調査を行った折、文庫長藤田儲三氏は「伝世品の多くは町内の旧家に保管されていた」と話されており、これらを御荘焼各窯跡出土資料と比較検討し、緑・一木窯跡採集品と共通する特徴があるものについては、当該窯生産品と推定されたと思われるので、それを踏まえた上で、伝世品何点かと採集品との関連について自身の意見を述べたい。

染付端反茶碗(手描き) 同蓋

染付端反碗(9-1、9-3、9-5)と同蓋(9-2、9-6、9-7)はセットとなるもので、碗は、内面口縁端部に「裏の苫屋文帯」を描き、見込は崩れた花輪、外面は渦巻羊歯と椿のセットが3カ所描かれる。

蓋も口縁内面端部に挟まれた「裏の苫屋文帯」を描き、見込は崩れた花輪、外面は渦巻羊歯と椿のセットが三カ所描かれるところは碗と同じである。

藤田氏が、上記伝製品を緑・一木窯製品とした根拠の一つが染付端反碗片(9-8)である。同破片は伝世品に分類されていたが「一木」の書込みがあり、採集品のようである。

描かれていた文様は菊花文で伝世品碗の文様とは違うが、筆の運びに共通点があることに着目し、伝世品の窯跡特定の根拠にされたのではないかと。



染付猪口(手描き)

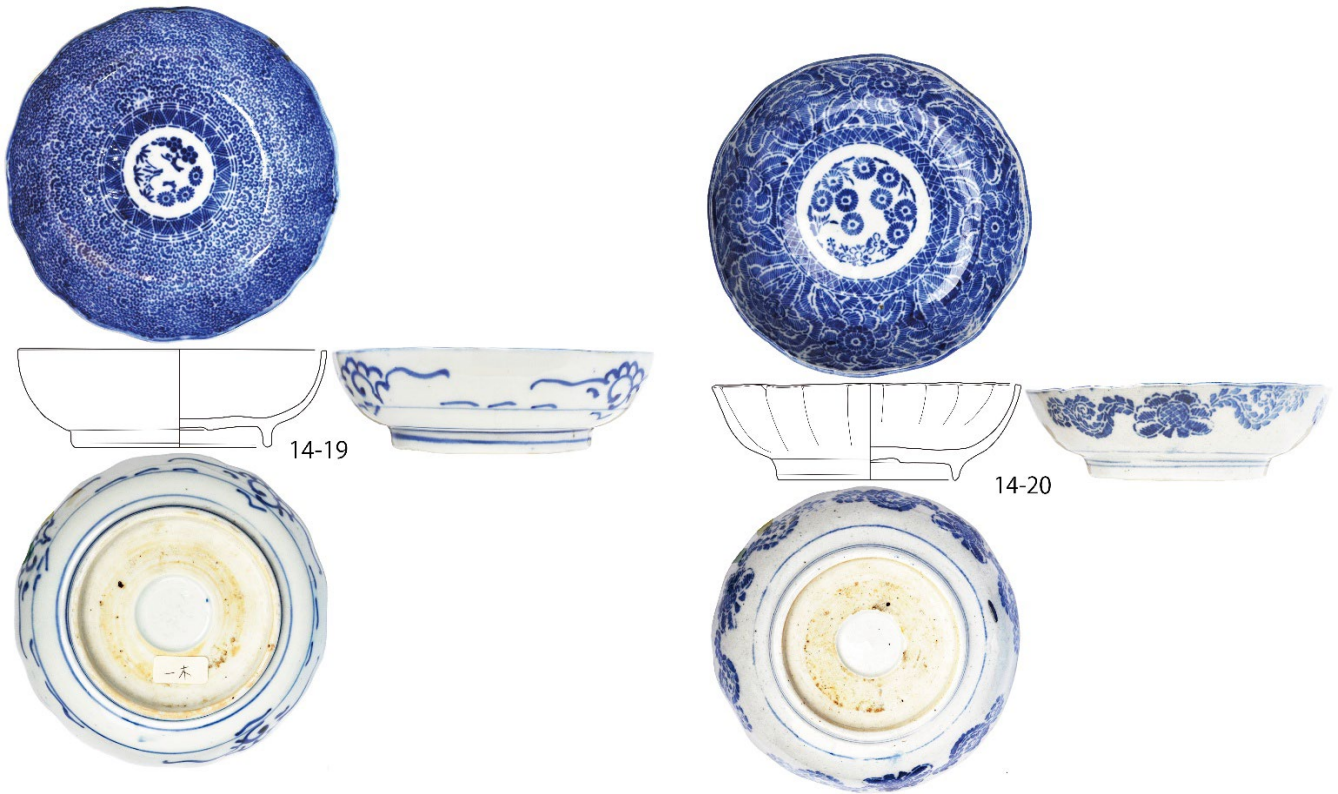
10-9 の口縁端部には稜が 32 ある。外面は 2 本線で区切られた窓絵(花) 3 セット。10-10、10-11 も手描きで同じ構成の文様であるが、10-10 は口縁端部の稜が 33、10-11 は口縁端部の稜が 35 ある。採集品の中では染付猪口(8-80)が、外面に 2 本の太い線で区切られた窓絵(花枝)3 セットを描くが、筆のタッチが荒々しく、蝶が添えられ、口縁端部の稜もない。藤田氏は、文様構成の類似を根拠に伝世品 3 点を緑・一木窯製品に比定したのではないか。



染付皿(印版手)

14-19 は稜花皿で口縁端部呉須の口紅、内面は細かい花付ミジンコ文、見込は二重破線と格子文帯で区画され、中央に破線に区画され「崩れた松竹梅文」を描く。外面は手描きの「崩れた花帯3」セット、高台内、蛇目状露胎。14-20 は稜花皿で口縁端部呉須の口紅、内面は細かい線で描かれた(十字花+変わり花)4セット、見込は破線と格子文帯で区画され、中央は破線に囲まれた「崩れた松竹梅丸文」外面、花帯3セット、高台内は蛇目状露胎。14-21 は稜花皿で口縁端部呉須の口紅、内面は細かい線で描かれた(十字花+変わり花)4セット、見込は破線と格子文で区画され、中央は破線に囲まれた「崩れた松竹梅丸文」外面、花帯3セット、高台内、蛇目状露胎。

14-20 と 14-21 は内外面とも同じ文様の揃い皿である。採集品 7-73 の内面はミジンコ手と花文が組み合わせで、見込は二重破線と崩れた内行花文、区画され中央には「崩れた松竹梅文」文を描く。細部は違うが、14-19~21 と文様構成は似ている。



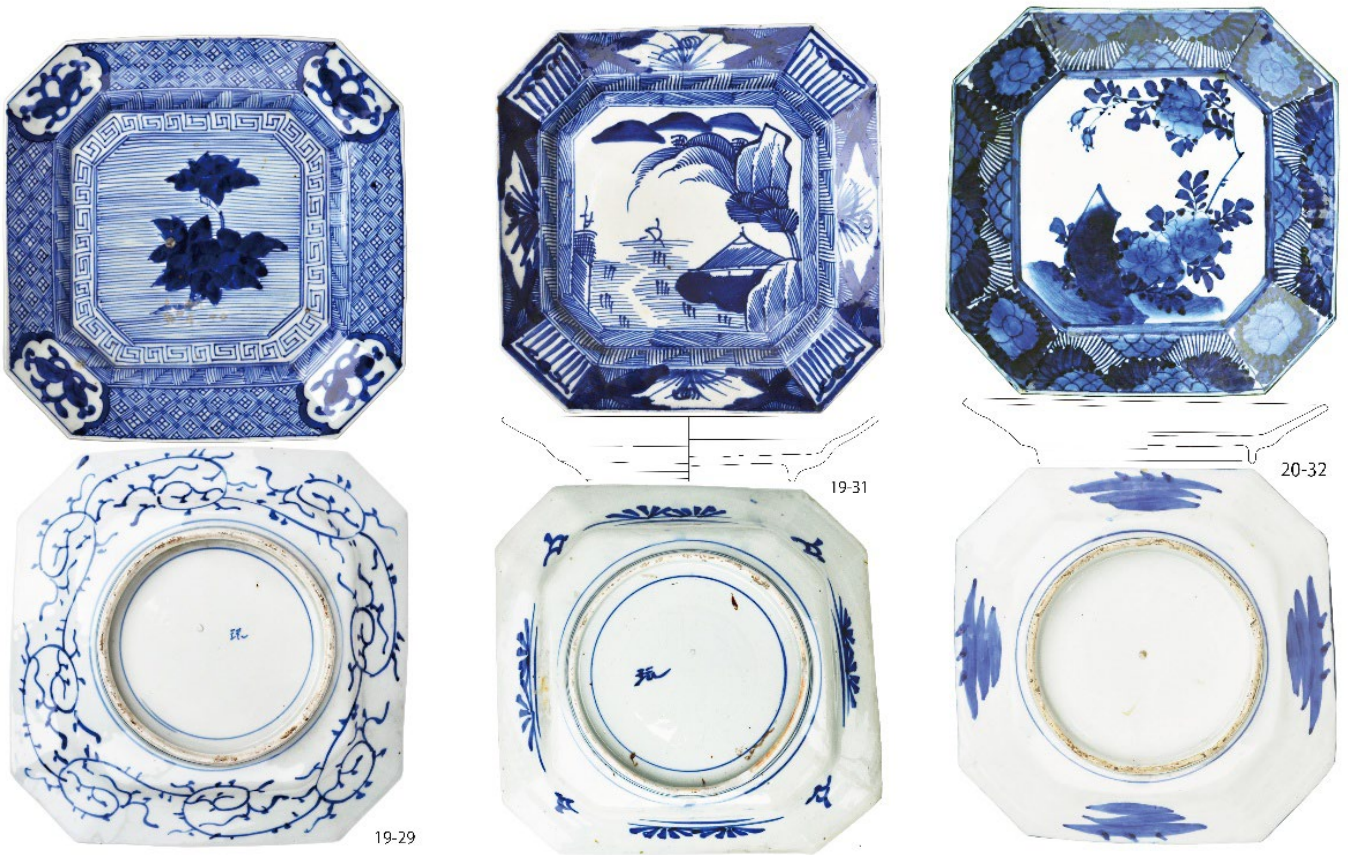
染付大型角皿(手描き)

19-29 は、内面の口縁は格子文、四隅は窓に結び花、見込と口縁の接続部は「幾何文、雷文の二段」、中央部、縞文、椿文、降灰有り、外面、口縁、唐草、高台は円形で高台内に「珉」の文字、ハリ支え痕が1箇所所有。19-31 は、口縁端部は波打っている。内面、窓に蘭、四隅に棒状の文様があり、見込と口縁の接続部は「幾何文」が二段、中央の裏の苔屋文には愛南町の名勝「三ツ畑田島」が描かれる。外面口縁には草文、四隅に千鳥文、高台内に「珉」の文字、ハリ支え痕が1箇所所有。20-32 は、口縁端部は波打っている。内面、芙蓉手風区画文様、見込、岩に牡丹、外面 崩れた草文 中心にハリ支え痕1箇所所有

藤田氏は、(隅)角切り角皿片(大型角皿 7-76)が、御荘焼4窯で唯一「緑・一木窯跡」で採集されたことから、大型角皿が同窯で焼成していたことを、前掲報告でも述べている。

7-76 は、伝世品と違い、内面口縁と見込境の文様や海面の文様が雑である。





染付鉢

16-23 は、口縁端部は呉須の口紅で、内面は細かい印版手のミジンコ花文、外面は(鳳凰+松)3セット、高台内は蛇目状露胎でワドチの痕が有る。18-25 は口縁端部が外反し、狭い面を持つ。内面 (菊+牡丹)4セット、見込は(松に三日月)、外面(羊歯と椿文)4セット、高台内は蛇目状露胎でワドチの痕が有る。 採集品(8-75)の内面は印版手の細かいミジンコ花文で、外面は線で区画され羊歯文を描く、伝世品(16-23、25)両方の要素を持っている。



特殊品、陶器

足付燈明台 (4-45) は釉が薄く、底部が基筈底状で、伝世品(13-26)とは形が違う。13-27、16-28 は何れも杯台で、作りも非常に緻密である。



第4章 おわりに

緑・一木窯跡採集品に施される西洋伝来の技術として西洋コバルトを用いた印版手・手描き製品、クロム青磁製品、銅板転写製品が含まれる。明治政府は御雇外国人等から上記のような「窯業に係る新技術」を得て各窯業地へ広めて行くが、その実態を示す資料として「岐阜県立多治見工業高等学校所蔵の近代陶磁資料」を紹介したい。

同資料の美濃焼約 1600 点の内 99 点に「製作年を記したラベル年号」が貼付されているが、その信憑性は高いとされる。

各種別の中で西洋コバルト使用の最古例は(註 3) **明治 8 年**のラベルが貼付される「染付蝙蝠文線茶碗」である。肥前・有田の村松九助は、明治 7 年(1874)輸入品の酸化コバルト(西洋コバルト)を大量に買い占め、その後、名古屋を拠点に美濃や瀬戸に売りさばいていたので、この絵の具が量産品の染付に汎用されていくことを証するものとされている。砥部と同じ**明治 8 年**に西洋コバルト技術が用いられた製品が作られていることは興味深い。(註 4)

美濃焼摺絵(印版手)「摺絵染付雲鶴文徳利」には**明治 16 年**ラベルが貼付。砥部では印版手は**明治 11 年**に導入される。(註 5)

「青磁花籠文小皿」は酸化クロムを用いた磁器(クロム青磁)で、**明治 10 年**のラベルが貼付。クロム青磁の技術はフランスでは 19 世紀には考案されているが(註 6)美濃では西洋コバルト導入後のわずかな期間において酸化クロム技術も入っている。

「銅板染付小皿」には**明治 21 年**のラベル、「赤絵銅板花筏文小皿」には**明治 28 年**のラベルが貼付される。砥部では、**明治 26 年**に美濃焼技術者を招き「銅板転写技法」を習ったとされ(註 7)銅板転写技術の導入は美濃が先んじていたことが分かる。

藤田氏は前掲書で「緑・一木窯」が「緑・岡窯」より先に開窯したと記しているが、1850 年代の砥部製品に描かれた文様と類似する意匠の磁器片(4-51)は同時代のものだろうか。(註 8)

吉田氏は富岡喜内(九治兵衛)が、緑・岡窯を早崎弁次に緑・一木窯を譲った時、同窯の陶工金平金太郎が独立して、緑・一木窯を築窯したのは明治 7 年(1874)としているので、西洋コバルト技術が導入されるまで、緑・一木窯では天然呉須を用いていたことは考えられることである。

同窯の開窯時期は、採集品(5-64)に記された干支「甲子」を大正 13 年とするとそれ以降であろう。

緑・一木窯の採集品は少なく、県内窯関連資料と比較できるものも僅かであるが、7-76 は御荘焼 4 窯跡(長月、緑・森、緑・一木、豊田)の採集磁器片中、唯一確認された「染付大型角皿」である。

生産窯は確認できないが「同形式の皿」は各地に伝世品が残り、近代遺跡での出土も見られるので、その生産窯の一つが確認されたことは大きな成果である。

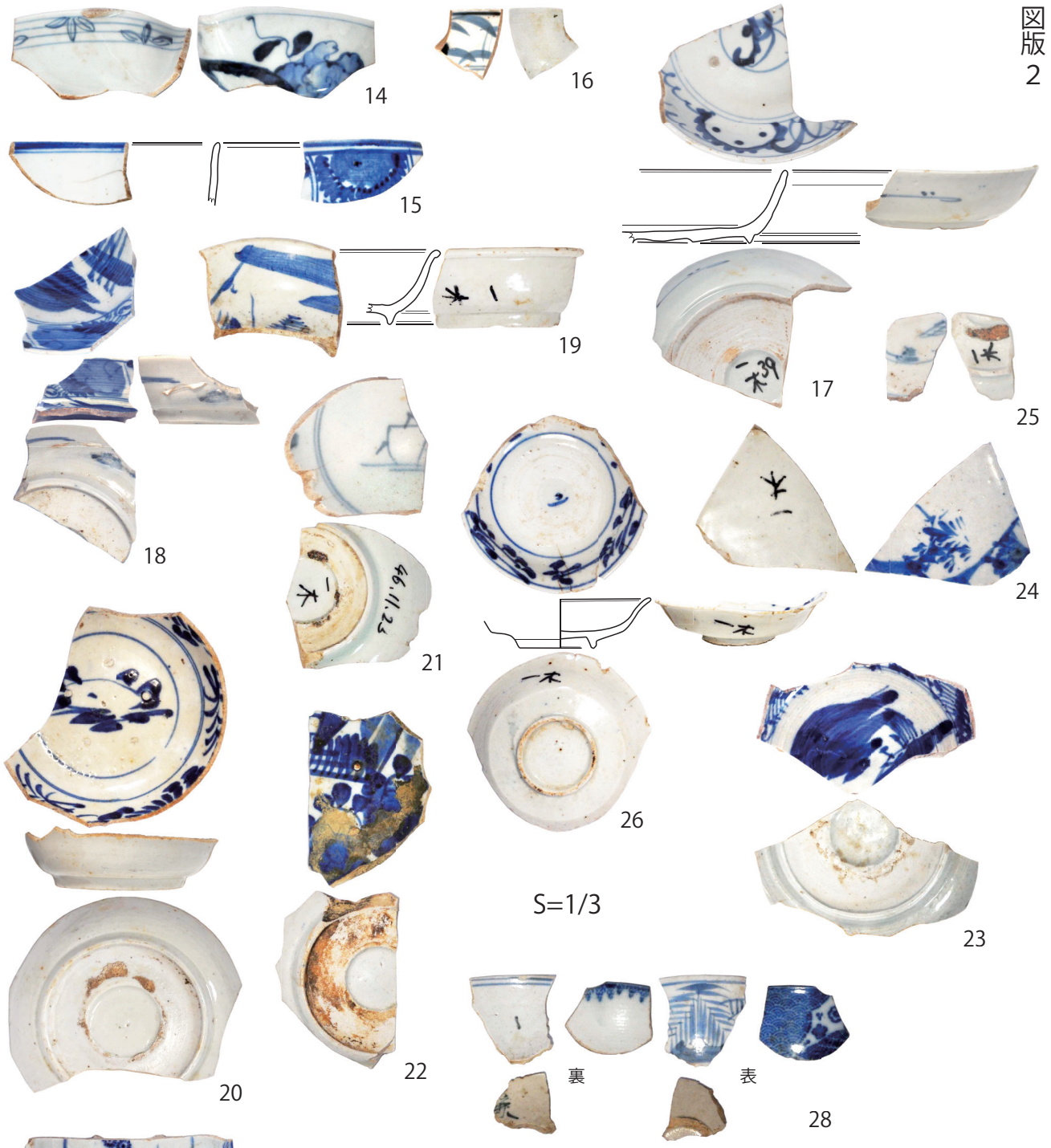
同窯の位置付けは不明なことが多いが、各地窯跡の調査が進み、比較できる資料が増えた時に、緑・一木窯関連資料が役立つことを期待したい。

藤田儲三先生は、一昨年御逝去されました。御所蔵品の調査を御許しいただき、資料年代に関する御教示もいただきながら、著者の怠慢で全窯の整理調査が終わらず、一部のレポートしか御届けできなかったことを御詫びし、謹んで御冥福を御祈り申し上げます。

註

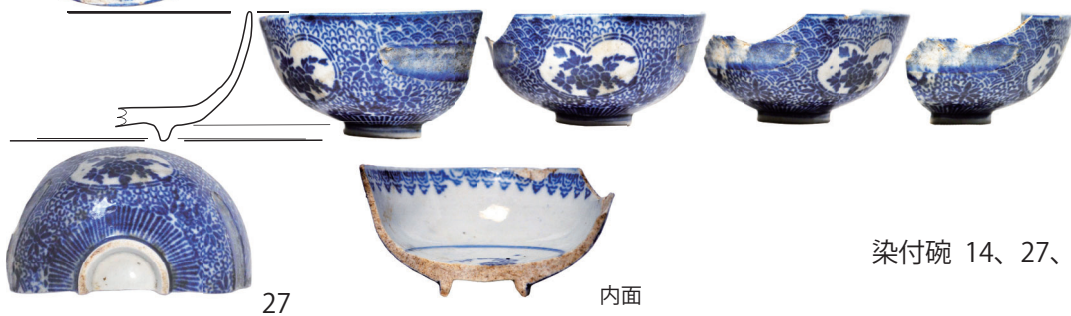
- 1 石岡ひとみ 「近世砥部焼磁器碗に関する基礎的研究－上原(かんばら)窯跡採集資料を中心として－」『研究紀要 第12号
愛媛県立歴史文化博物館 2007年3月31日
－平成18年度テーマ展－ 近代えひめのやきもの 印版手のわん・さら・はち 愛媛県立歴史文化博物館 平成18年4月22日
- 2 石岡ひとみ 「近世砥部焼磁器碗に関する基礎的研究－上原(かんばら)窯跡採集資料を中心として－」『研究紀要 第12号
愛媛県立歴史文化博物館 2007年3月31日
－平成18年度テーマ展－ 近代えひめのやきもの 印版手のわん・さら・はち 愛媛県立歴史文化博物館 平成18年4月22日
- 3 立花 昭 「岐阜県立多治見工業高等学校所蔵の近代陶磁資料について一年号が付記された製品を中心に」 『岐阜県立博物館調査研究報告 第40号 3－11 ページ 2020年3月
- 4 立花 昭 「岐阜県立多治見工業高等学校所蔵の近代陶磁資料について一年号が付記された製品を中心に」 『岐阜県立博物館調査研究報告 第40号 3－11 ページ 2020年3月
- 5 石岡ひとみ 「近世砥部焼磁器碗に関する基礎的研究－上原(かんばら)窯跡採集資料を中心として－」『研究紀要 第12号
愛媛県立歴史文化博物館 2007年3月31日
－平成18年度テーマ展－ 近代えひめのやきもの 印版手のわん・さら・はち 愛媛県立歴史文化博物館 平成18年4月22日
- 6 代表研究者 今井祐子 「19世紀セーヴル国立磁器製作所における技術漢発と東洋陶磁」科学研究費助成事業 研究成果報告書 基礎研究○（一般）平成30年6月18日
－平成18年度テーマ展－ 近代えひめのやきもの 印版手のわん・さら・はち 愛媛県立歴史文化博物館 平成18年4月22日
- 8 石岡ひとみ 「近世砥部焼磁器碗に関する基礎的研究－上原(かんばら)窯跡採集資料を中心として－」『研究紀要 第12号
愛媛県立歴史文化博物館 2007年3月31日





染付猪口 15、16

染付皿 17 ~ 26



染付碗 14、27、28

内面



染付皿 29 ~ 35、39、40、42

すりこはち（陶器） 38

染付碗 41

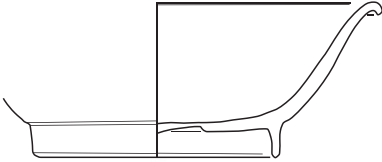






染付鉢 71

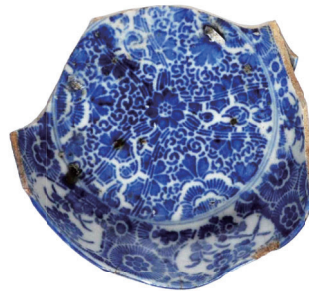
染付皿 72 ~ 74



74



71



染付角皿 76

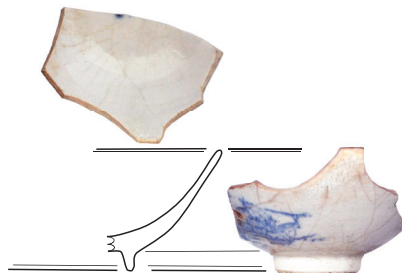
染付碗 78



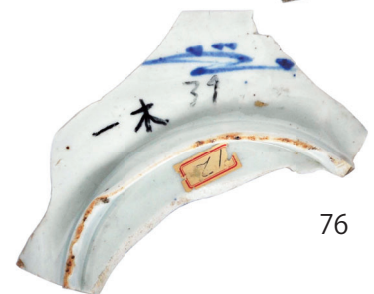
72



73



78



76

S=1/3

染付大皿 75

染付碗
77、79、88、89

染付猪口 80

クロム青磁湯飲 81

染付皿 82 ~ 85

白磁鉢 86

染付鉢 87

S=1/3





染付端反碗 1、3、5

染付蓋 2、4

S=1/3



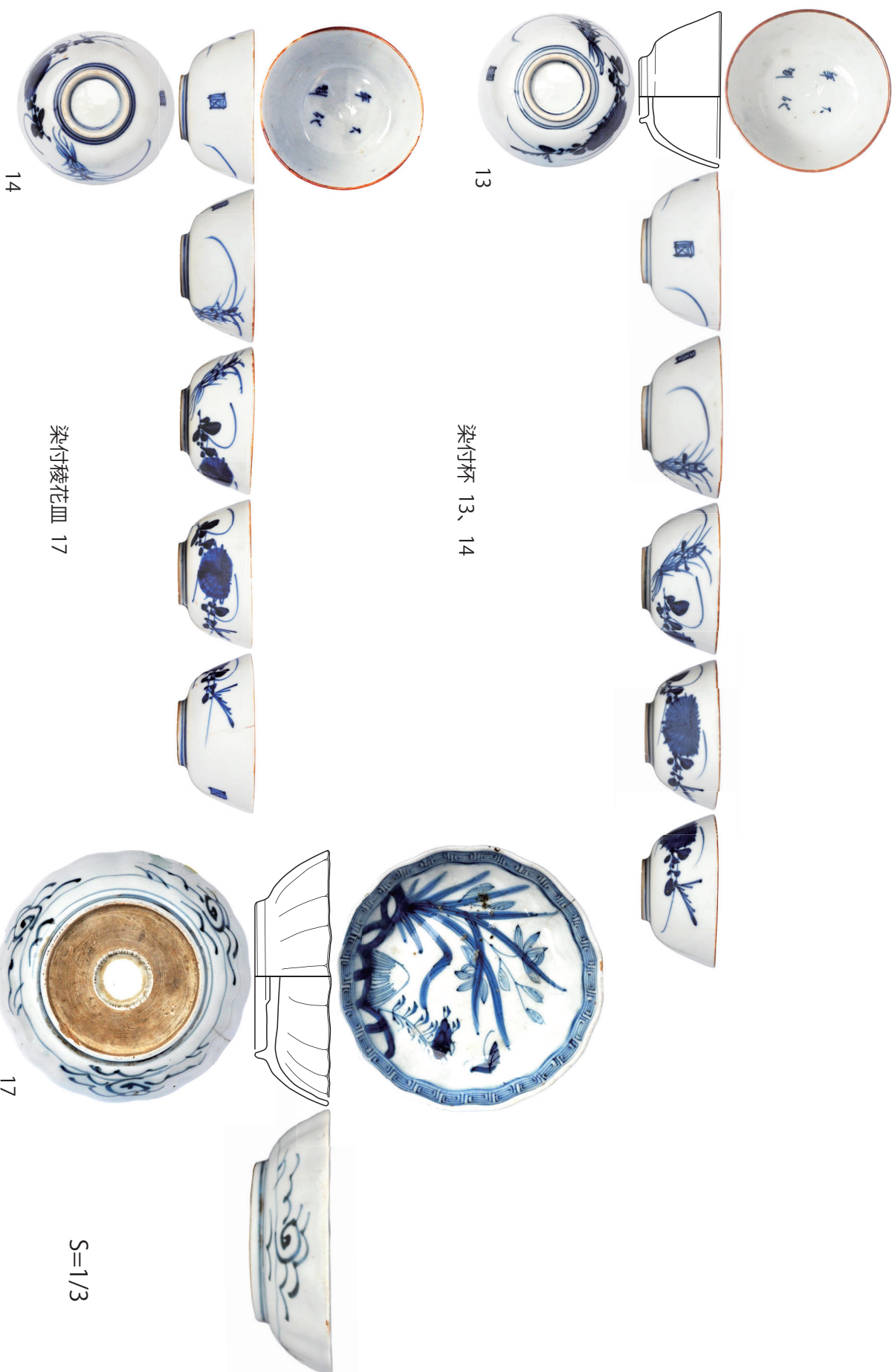
染付蓋 6、7

染付碗片 8

染付稜花猪口 9～11

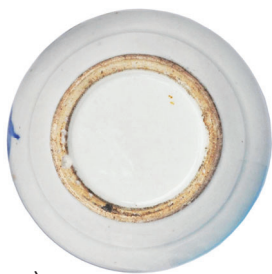
染付印版手猪口 12

S=1/3





染付蓋物 15



15



染付瘦花皿 18

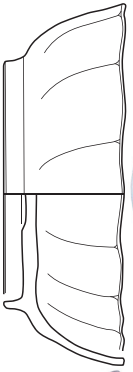


18

S=1/3



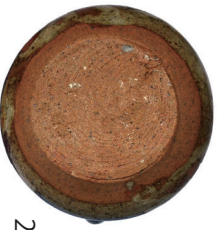
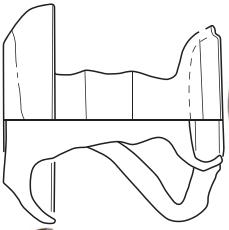
染付稜花皿 16



16



ランプ型灯明具 26



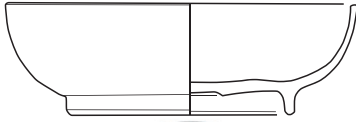
26

杯台 27

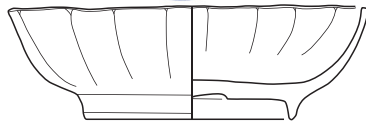
S=1/3



27



19



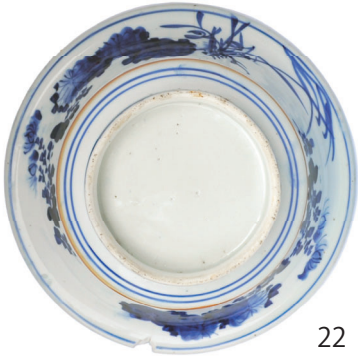
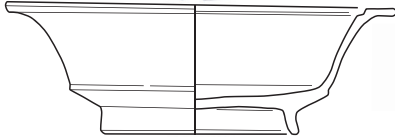
20



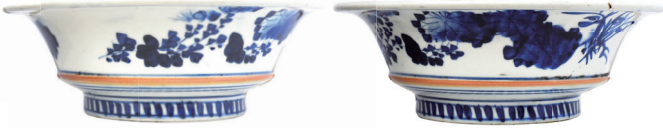
21

染付印版手稜花皿 19 ~ 21

S=1/3



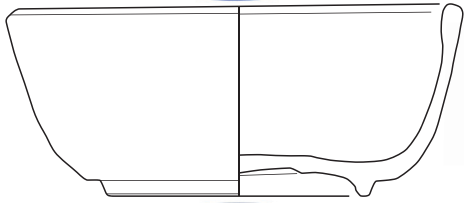
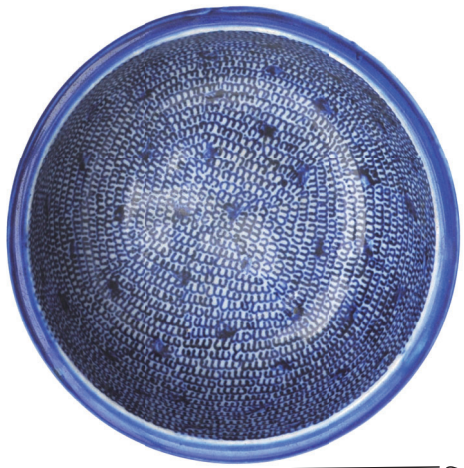
22



染付鉢 22



S=1/4

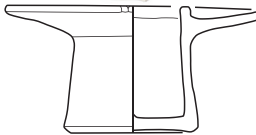


23

染付鉢 23

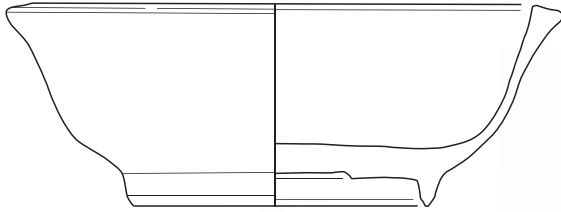
染付杯台 28

S=1/3



28

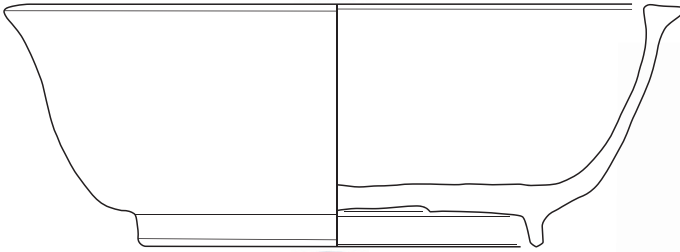




24

染付鉢 24

S=1/3



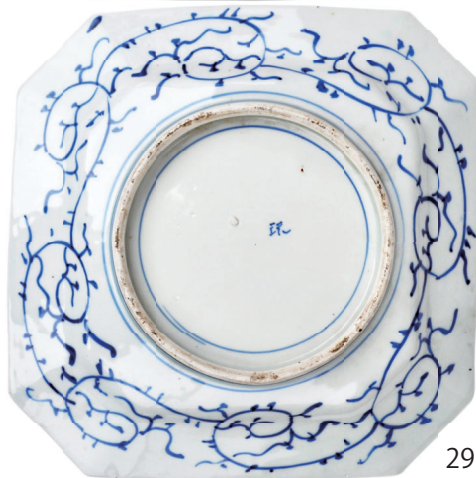
25



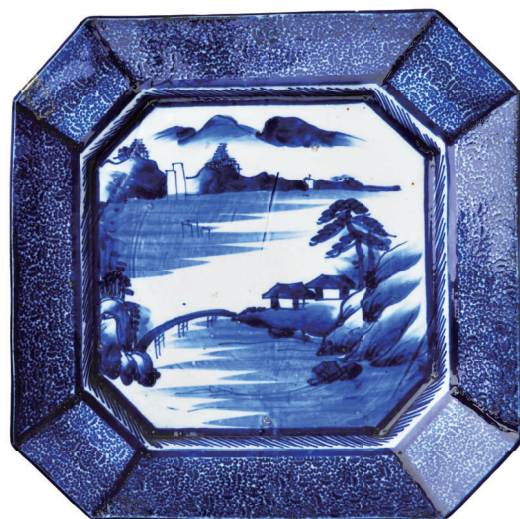
染付鉢 25

S=1/3

図版 19



29



30



31

染付大型角皿 29 ~ 31

S=1/5



染付大型角皿 32、33

S=1/5

緑・一木窯採集遺物観察表

実測 番号	遺物名	法量(cm)			色調			焼成 胎土	その他	個 数
		口径	高台径	器高	釉の上から	呉須	露胎			
1	印版手染付筒碗		3.70		7.5GY8/1	2PB3/5	2.5Y8/2	良好 緻密	全体に歪んでいる 口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁端部 揺絡文 熔着有り 見込 圏線 中央部 花輪文 降灰有り 外面 背景 渦巻羊歯文 「窓に白抜き壽字+白抜き福字」3セット 底部 圏線2本 高台 圏線 畳付露胎 高台内「一木」の書込み 西洋コバルト	1
2	染付深皿	12.0	6.4	4.2	2.5GY7/1	4.5PB3/7	N8/	良好 緻密	底部は歪んでいる 口縁端部 外反 内面 口縁端部 圏線 崩れた草花文 見込 二重圏線 中央部 圏線 崩れた浦の苫屋文 足付ハマ痕 2カ所有り 磁器片が熔着している 外面 高台内 蛇目状露胎 熔着有り	1
3	染付深皿		9.0	3.5	7.5GY8/1	4.5PB3/7	10YR7/6	良好 緻密	口縁端部 外反 内面 口縁端部 熔着痕有り 圏線 崩れた浦の苫屋文 見込 二重圏線 崩れた浦の苫屋文 足付ハマ痕 2カ所有り 外面 崩れた花帯 高台内 蛇目状露胎 ワドチの熔着痕有り 「一木 46.11」の書込み	1
4	印版手染付皿		8.20		10Y8/1	4.5PB3/7	5Y6/2	良好 緻密	内面 花文+細かいミジンコ文 見込 二重破線 内行連弁文 中央 花文帯 足付ハマ痕 2カ所 外面 裾部 圏線 重なった染付片 熔着 高台 圏線 高台内 蛇目状露胎 アルミナ状の泥を塗る 「一木」の書込み 西洋コバルト	1
5	染付腰折小皿	9.7	4.0	2.25	7.5Y8/1	7.5B4.5/2.5	10YR7/4	良好 緻密	口縁の1個所に熔着があり歪んでいる 内面 口縁端部 圏線 崩れた浦の苫屋文 見込 圏線 蛇目状露胎 「一木」の書込み 外面 高台 畳付露胎	1
6	染付鉢				7.5Y8/1	7.5B4.5/2.5		不良(柔らかい) 緻密	口縁は外反する 「一木」の書込み 内面 口縁端部に圏線 界線に竹文 天然呉須	1
7	白磁輪花皿				10Y8/1		2.5Y8/1	良好 緻密	全体に歪みがひどい 型押し作り 内面 輪花文 降灰・熔着有り 外面 染付片2点 熔着 高台内 蛇目状露胎 「一木」の書込み	1
8	染付稜花皿	14.2	8.1	4.0	5GY8/1	2PB3/5	2.5Y8/3	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅(ぼかしている) 内面 見込 文様不明 外面 口縁 暗花の花文 高台 畳付 露胎 内外面に「一木」の書込み	1
9	印版手染付鉢		8.4	6.25	7.5Y7/1	2PB3/5	7.5Y8/1	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 青海波 窓絵「羊歯」「牡丹」 圏線 見込 二重圏線 文様不明 外面 花帯「青海波丸+波丸」 圏線 高台 圏線 高台内 蛇目状露胎 「一木 46.11.23」の書込み 西洋コバルト	1
10	染付筒碗		3.8		5B7/1	4.5PB3/7	7.5YR7/6	良好 緻密	釉が青っぽい 内面 見込 圏線 蛇目状露胎 径3.8cmの高台痕有り 「一木」の書込み 外面 崩れた草花文3セット 圏線2本 高台 圏線 畳付 露胎	1
11	染付筒碗				5B7/1	2PB3/5		良好 緻密	釉が青っぽい 内面 見込 圏線 蛇目状露胎 中央に銘 外面 崩れた草花文3セット 圏線 高台 圏線	1
12	染付碗	12.0			10Y8/1	5PB3/4		良好 緻密	内面 口縁端部 二重圏線 見込 圏線 47.6.5の書込み(赤字) 外面 裏の苫屋文	1
13	染付杯				2.5GY8/1	2.5PB2.5/5		良好 緻密	内面 口縁端部 二重圏線 外面 圏線 梅文?	1
14	染付碗				2.5GY8/1	2PB3/5		良好 緻密	ひどく歪んでいる 内面 口縁端部 四重圏線に三葉文 外面 雪持ち笹文	1
15	染付猪口	7.0			N8/	4.5PB3/7		良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 圏線 外面 圏線 草花文	1
16	染付猪口小片				10Y8/1	2PB3/5	2.5Y7/2	良好 緻密	内面 圏線 竹文 天然呉須	1
17	染付皿	12.6	8.0	3.45	10Y8/1	2PB3/5	5Y7/1	良好 緻密	内面 口縁端部 圏線 水車が雪持ち笹 見込 二重圏線 足付ハマの痕1個所有り 中心 崩れた花輪文 外面 崩れた竜唐草 高台 高台内 蛇目状露胎 「一木39」の書込み 天然呉須	1
18	染付皿		7.6	3.6	7.5Y7/1	2PB3/5	2.5Y7/2	良好 緻密	内面 口縁端部 圏線 崩れた浦の苫屋文 外面 熔着痕有り 高台内 蛇目状露胎	1
19	染付深皿	12.0	8.2	3.3	10Y8/1	6PB5/9.5	2.5Y7/3	良好 緻密	口縁端部 外反 小さな玉縁 内面 崩れた裏の苫屋文 足付ハマ痕 1カ所有り 外面 「一木」の書込み 高台内 蛇目状露胎	1
20	染付皿		7.5		10Y8/1	4.5PB3/7	10Y8/1	良好 緻密	内面 崩れた花文 見込 二重圏線 崩れた花輪文 足付ハマの痕5カ所有り 外面 総釉 高台内 径4.0cmのワドチ痕有り 西洋コバルト	1

21	染付皿		6.8		5GY8/1	3PB4/7.5	10Y8/1	良好 緻密	内面 見込 圏線 中央 帆掛け舟 外面 高台内 蛇目状露胎 径3.8cmのワドチ痕有り「46.11.23」「一木」の書込み	1
22	染付皿		7.4		7.5Y8/1	4.5PB3/7	10Y8/1	良好 緻密	内面 見込 浦の苫屋文 足付ハマの痕2カ所有り 外面 高台内 蛇目状露胎 径3.6cmのワドチ痕有り 西洋コバルト	1
23	染付皿		8.2		10Y8/1	4.5PB3/7	10Y8/1	良好 緻密	底部が盛り上がっている 内面 浦の苫屋文 足付ハマの痕2カ所有り 外面 高台内 蛇目状露胎 径4.0cmのワドチ痕有り 西洋コバルト	1
24	染付皿				7.5Y7/1	4.5PB3/7		良好 緻密	内面 見込 文様不明 外面 高台内 「一木」の書込み 西洋コバルト	1
25	染付皿				10Y8/1	7.5B4.5/2.5	10Y8/1	良好 緻密	内面 見込 圏線 不明文様 外面 総釉 高台内にワドチ痕有り「一木」の書込み	1
26	染付腰折小皿	7.0	3.5	2.45-2.25	10Y8/1	4.5PB3/7	10YR7/3	良好 緻密	口縁端部 外反 内面 圏線 草花文 見込 圏線 蛇目状釉剥ぎ 中央に「岩波文」有り 外面 高台際の削りが十分ではない 高台 畳付露胎 西洋コバルト	1
27	印版手染付丸碗	10.2	3.1	5.0-5.35	10Y8/1	4.5PB3/7	10YR6/3	良好 緻密	内面 口縁端部 揺絡文 見込 二重圏線 花輪文 降灰有り 外面 背景一青海波+ミジンコ文 窓は二重破線で縁取る 窓絵「牡丹」 底部 連弁文 高台 圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
28	染付碗片							良好 緻密	口縁片(印版手-1 手描き-1) 底部片(手描き-1)	3
29	印版手染付皿	12.6	7.0	3.85	10Y8/1	4.5PB3/7	2.5Y8/2	良好 緻密	口縁端部 外反 小さな玉縁 内面 「破線で縁取られた青波海、花に蝶文」 見込 花文 足付ハマ痕 1カ所有り 外面 花帯 高台内 蛇目状露胎 西洋コバルト	1
30	染付皿稜花皿		8.6		10Y8/1	2PB3/5	2.5Y8/1	良好 緻密	内面 浦の苫屋文 降灰有り 砂付着 外面 崩れた竜唐草「46.5.24」の書込み(赤字) 高台内 蛇目状露胎 西洋コバルト	1
31	染付皿		8.0		10Y8/1	4.5PB3/7	10Y8/1	良好 緻密	内面 見込 浦の苫屋文 足付ハマの痕2カ所有り 外面 高台内 蛇目状露胎 西洋コバルト	1
32	染付皿		8.0	3.3	10Y8/1	4.5PB3/7	10Y8/1	良好 緻密	底部は膨らんでいる 口縁端部 外反 小さな玉縁 内面 口縁端部 圏線 崩れた草花文 二重圏線 見込 圏線 中央 崩れた草文 製品熔着1箇所 中央部にワドチの痕有り 外面 高台内 蛇目状露胎 中央部にワドチの痕有り 西洋コバルト	1
33	染付皿		8.0		10Y8/1	7.5B4.5/2.5	N9/	良好 緻密	内面 亀甲文 見込 二重圏線 中央 圏線 不明文様 外面 高台内蛇目状露胎「46.10.14 一木」の書込み 西洋コバルト	1
34	染付皿片								手描き-3	3
35	染付鬘皿				10Y8/1	4.5PB3/7	7.5YR7/4	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 見込 羊歯文 蛇目状露胎 外面 高台 畳付露胎「一木」の書込み	1
36	印版手染付蓋		3.8	2.75	10Y8/1	2PB3/5	7.5YR7/4	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁端部 揺絡文 見込 二重圏線 崩れた花輪 外面 背景 渦巻羊歯文 摘み 二重圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
37	白磁鉢				7.5Y7/1		7.5YR7/4	良好 緻密	内面 施釉 外面 底部 露胎	1
38	すりこはち(陶器)	4.6	2.0	1.85-2.1			7.5YR6/6	良好 緻密	手づくね成形 稜花碗状になる 高台内に「一風山 清風」の印あり	1
39	印版手染付稜花皿	12.6	7.8	3.4	10Y8/1	2PB3/5	10YR8/2	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁 水玉地に「鶴」「花(2種)」 見込 二重圏線 放射状 二重破線で花文・ミジンコ状石畳文を分ける 中心 花一輪 見込の文様は7-72と同じ 足付ハマの痕3箇所所有り 外面 花帯3セット 圏線 高台 圏線 高台内 蛇目状露胎 ハマの痕(幅1.1cm)有り 47口縁外面と39口縁内面は同種の文様 西洋コバルト	1
40	印版手染付稜花皿	13.0			7.5GY8/1	2PB3/5		良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁部 「窓に花」「花」 外面 花帯3セット 熔着痕有り 圏線 西洋コバルト	1
41	染付碗				5B7/1	3PB4/10	10YR8/4	良好 緻密	釉が青っぽい 内面 見込 圏線 蛇目状露胎 径3.6cmの高台痕有り 外面 崩れた草花文3セット 圏線 高台 圏線 畳付 露胎	1
42	印版手染付皿				2.5Y8/3	2PB3/5	2.5Y6/3	やや柔らかい 緻密	表裏ともピンホール多い 内面 見込 二重圏線 花文 外面 圏線2本 高台 圏線 畳付 露胎	1
43	印版手染付小皿	9.2	3.1	2.2-2.8	10Y8/1	3PB4/10	2.5Y6/3	良好 緻密	内面 「山村文様」3セット 見込 蛇目状露胎 径3.3cmの高台痕有り(ずれている) 外面 高台内 露胎 西洋コバルト	1

44	染付片							外面 花文 西洋コバルト	1
45	足付燈明皿(陶器)		4.9		10YR5/4		2.5Y7/1	良好 緻密 受部は欠損している 釉溜まり有り 底部 露胎 糸切痕残る「一木」の書込み	1
46	印版手染付碗	12.2	4.5	6.15- 6.4	5GY8/1	4.5PB3/7	2.5Y8/2	良好 緻密 口縁端部 呉須の口紅 内面 瓔珞文 見込 圏線 中央部 圏線 花輪 降灰有り 外面 口縁端部「青海波」 中位は破線で縁取られ「千鳥」 下位「松」 底部 二重圏線 高台際 圏線 高台 圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
47	印版手染付碗		4.0		2.5GY8/1	4.5PB3/7	7.5YR8/6	良好 緻密 内面 圏線 見込 圏線 降灰有り 蛇目状露胎 外面 水玉地に「鶴」「花(2種)」 刷絵がうまく重ならず途切れている場所がある 圏線2本 高台 圏線 畳付露胎 47の口縁外面と39口縁内面は同じ文様 西洋コバルト	1
48	印版手染付碗		4.3		5B7/1	4.5PB3/7	7.5YR8/6	良好 緻密 全体にひどく歪んでいる 内面 口縁端部 圏線 見込 蛇目状釉剥ぎ 径3.9cmの高台痕有り 外面口縁端部 圏線 ミジンコ地に「富士山に雲」 底部 圏線2本 製品熔着 高台 圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
49	染付八角鉢				10Y8/1	2PB3/5		良好 緻密 内面 芙蓉手「青海波」「窓絵に葡萄」外面「三宝」「壽字」	1
50	波佐見染付碗	10.0			10Y8/1	7.5B4.5/2.5		良好 緻密 内面「一木」の書込み 外面 草花文 天然呉須	1
51	染付端反碗				10Y8/1	7.5B4.5/2.5		良好 緻密 内面 口縁端部 二重圏線 外面 口縁端部 圏線 多重圏線(8本) 口縁部 草花文 天然呉須	1
52	染付茶碗				10Y8/1	3PB4/7.5		良好 緻密 内面 圏線 外面 圏線 不明文様 天然呉須	1
53	染付鉢				10Y7/1	5PB2.5/2		良好 緻密 外面 竹文様 呉須が黒っぽい	1
54	銅版転写スジャク							良好 緻密 内面「一木」の書込み 外面 銅板転写 浦の苫屋文	1
55	青釉陶器 薬味入		9.7		7.5G4.5/4		2.5Y8/3	良好 緻密 内面 中央が花文で 凸帯で3区分されている 降灰著しい 外面 中位から下は透明釉が掛けられる 底部 基筈底 中心に「渦巻き」有り 陶器 型押「一木」の書込み	1
56	印版手染付端反碗	11.6	3.6	6.0	7.5Y8/2	4.5PB3/7	10YR7/4	良好 緻密 口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁端部 揺絡文 見込 圏線 中央部 花輪 外面 背景 渦巻羊歯文「窓に白抜き壽字」「白抜き福字」3セット 文様は図版1-1と同種 底部 圏線2本 高台 圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
57	染付茶碗				10Y8/1	4.5PB3/7		良好 緻密 全体に歪んでいる 内面 口縁端部 二重圏線 熔着痕有り「一木」の書込み 見込 圏線 外面 口縁端部 圏線 口縁部 多重圏線(4本) 中位 草花文 西洋コバルト	1
58	染付茶碗		3.8		7.5Y8/1	4.5PB3/7	10YR8/4	良好 緻密 内面 見込 圏線 中央 圏線 崩れた花輪文 外面 草花文 圏線 二重圏線+圏線 高台 圏線 畳付 露胎 西洋コバルト	1
59	印版手染付筒形碗	8.2		7.25- 7.5	10Y8/1	4.5PB3/7	2.5Y8/2	良好 緻密 口縁端部 呉須の口紅 外面 背景 花文「窓」有り 底部 二重圏線 高台 二重圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
60	染付猪口			5.2	10Y8/1	2PB3/5	2.5Y8/2	良好 緻密 内面 口縁端部 太い圏線 釉垂れ有り「一木 39」の書込み 外面 口縁端部 圏線 釉垂れ有り 手描きの市松模様 底部 圏線 高台 圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
61	染付杯			3.2	10Y8/1	3PB4/7.5	2.5Y8/2	良好 緻密 内面 見込 不明字有り「一木」の書込み 外面 高台 畳付露胎	1
62	染付杯		2.8		10Y8/1	3PB4/7.5	2.5Y8/2	良好 緻密 全体にひどく歪んでいる 内面 不明文様 高台 畳付露胎 高台内「一木」の書込み	1
63	染付深皿				10Y8/1	2PB3/5	10Y8/1	良好 緻密 焼成時の割れがあり歪んでいる 内面 口縁端部 圏線 草花文 底部 圏線 見込 圏線 草花文 降灰有り 外面口縁端部 やや肥厚する 中位 熔着痕有り 底部 高台内蛇目状露胎 ハマ熔着痕「一木」の書込み 西洋コバルト	1
64	染付底部		3.2		10Y8/1	2PB3/5	2.5Y8/2	良好 緻密 内面 見込「甲子 徳」の文字あり 外面に「46.11.14」「元治元 大正13」の書込み 高台内に「一木」の書込み 高台 畳付露胎 西洋コバルト	1
65	染付深皿(腰折皿)				10Y8/1	2PB3/5	7.5YR7/6	良好 緻密 内面 口縁「濃み」べた塗り 見込 浦の苫屋文 外面 崩れた花帯「一木」の書込み 高台 畳付露胎 高台内にハマ熔着痕 西洋コバルト	1
66	染付角皿				10Y8/1	3PB4/7.5	2.5Y8/2	良好 緻密 四隅 角切り 内面 口縁端部 圏線 見込 崩れた竹に挟まれた人物 外面 高台 畳付露胎 高台内に「一木」の書込み	1
67	染付角皿				10Y8/1	2PB3/5	2.5Y8/2	良好 緻密 内面 口縁端部 熔着痕 四隅 角切り 圏線 見込 竹の間に「若」字有り 降灰有り 外面 熔着有り 高台 畳付 露胎 高台内に「一木」の書込み有り	1

68	染付磁器皿	16.6	5.7	5.0	7.5Y8/1	9B4.5/9	5Y8/2	良好 緻密	口縁端部 狭い面を持ち露胎 内面 見込 [吉 (カネヨシ)の刻印有り 外面 口縁 不明 文様 「一木」の書込み有り 高台 畳付露胎	1
69	印版手染付皿				10Y8/1	4.5PB3/7	10Y8/1	良好 緻密	口縁が大きく歪んでいる 口縁端部 呉須の口紅 内面 瓔珞文 見込 圏線 花輪 口縁 背景石畳文に窓絵「花」8景 見込 二重破線と破線に囲まれた鋸歯文 中心 崩れた松竹 梅文 外面 花帯3箇所 圏線 同文様の染付が熔着している 高台 圏線 高台内蛇目釉 剥ぎ 中心部に「一木」の書込み 西洋コバルト	1
70	印版手染付碗(46と 同じ文様)		4.3	5.8	5GY8/1	4.5PB3/7	11YR7/6	良好 緻密	口縁が大きく歪んでいる 口縁端部 呉須の口紅 見込 圏線 花輪 足付ハマの痕1箇所 足が2個付いている 外面 口縁端部「大小の青海波」で1セット 下端は破線 中位は破線 で縁取られ「千鳥」下位「松」底部 二重圏線 圏線 同文様の染付片熔着 高台 圏線 畳付露胎 「一木」の書込み 西洋コバルト	1
71	印版手染付鉢		9.4	6.1	5GY8/1	2PB3/5	7.5Y8/1	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 「青海波」「羊歯」「牡丹」 圏線 見込 二重圏線 蔓草文様 足付ハマの痕3カ所 1箇所は足付着 外面 花帯「青海波+波+蔓草」 圏線 製品熔着 高台 圏線 高台内 蛇目状露胎 「一木」「46.11.23」の書込み	1
72	染付印版手稜花皿		7.7	3.2- 3.8	5GY8/1	4.5PB3/7	7.5Y8/1	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁 花の地に窓絵「花2種」 文様の継ぎ目あり 見込 二重圏線 放射状二重破線で花文・ミジンコ状石畳文を分ける 中心 花一輪 見込の文 様は3-39と同じ 降灰・熔着痕有り 外面 花帯3セット 圏線 高台 圏線 染付片熔着 高台内 蛇目状露胎 「一木」の書込み 西洋コバルト	1
73	染付印版手稜花皿	12.4	7.2	3.2- 3.5	5GY8/1	4.5PB3/7	2.5Y7/2	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 ミジンコ地に「5種の丸文」3セット 文様の繋ぎ目有り 見込 二重波圏線 内行連弁 中心 花輪文 降灰有り 外面 花帯3セット 圏線 高台 圏線 高台内 蛇目状露胎 「一木」の書込み 西洋コバルト	1
74	染付皿		7.9		5GY8/1	2PB3/5	5Y8/1	良好 緻密	歪んでいる 内面 口縁端部 圏線 草花文 見込 浦の苫屋文 足付ハマ痕3箇所有り 染付の熔着有り 外面 高台内 蛇目状露胎 「一木」の書込み 西洋コバルト	1
75	染付大型皿				5GY8/1	2PB3/5	N9/	良好 緻密	内面 花ミジンコ地に文様 外面 区画され羊歯文・花文が描かれる 高台内 蛇目状露胎 「一木」の書込み 西洋コバルト	1
76	染付大型角皿				5GY8/1	4.5PB3/7	5YR7/6	良好 緻密	ひどく歪んでいる 内面 口縁 圏線「雲」下段「蔓草」 見込 花文 外面 崩れた花帯 「12」のシール貼付 「一木 39」の書込み高台 畳付露胎 西洋コバルト	1
77	印版手染付丸茶碗	12.0		4.7	10Y8/1	4.5PB3/7	10Y8/1	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 揺絡文 外面 花地に破線で区切られた窓絵「竹」「花」 底 部 破線に区切られた蓮弁文 高台 二重圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
78	印版手染付茶碗			4.85	5Y7/1	2.5PB4/12	10YR6/4	良好 緻密	内面 見込に文様わずかに残る 外面 松に鶴のプリント有り 高台 畳付露胎	1
79	染付小碗		2.8		10Y8/1	3PB4/10	10YR6/4	良好 緻密	内面 見込 「太場？」 外面 「46.11.17」の書込み 高台 畳付露胎 「一木」の書込み	1
80	染付猪口		3.7		5GY8/1	2PB3/5	10YR6/4	良好 緻密	内面 口縁端部 太い圏線 釉垂れ有り 「一木 39」の書込み 外面 口縁端部 圏線 釉 垂れ有り 二本線で三等分に区画された窓に、松らしい樹木と蝶の文様、底部 圏線 高台 圏線 畳付露胎 西洋コバルト	1
81	クロム青磁印版手 染付湯飲				1.5G3.5/6 (緑)	2PB3/5	10Y8/1	良好 緻密	外面 草花文 底部 圏線 高台 圏線 畳付露胎 クロム地 西洋コバルト	1
82	白磁腰折皿	8.7	4.1	2.0- 2.1	7.5Y8/1		2.5Y7/3	良好 緻密	全体に歪んでいる 口縁端部に染付片熔着 内面 蛇目状露胎 径3.5cmの高台痕有り 外 面 高台 畳付露胎 高台内に「一木」の書込み	1
83	白磁腰折皿		3.6	2.15	10Y8/1		10YR7/6	良好 緻密	内面 蛇目状露胎 径4.0cmの高台熔着 「一木」の書込み 外面 高台 畳付露胎	1
84	印版手染付稜花皿		7.6	3.2	N8/	4.5PB3/7	2.5YR7/3	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁部 石畳に「白抜きの楓」 見込 二重破線 斜線文 破線 花輪文 足付ハマ痕1カ所有り 外面 花帯 底部 圏線 高台 圏線 内外面にピン ホール有り 高台内 蛇目状露胎	1
85	印版手染付稜花皿	13.2	7.6	3.3	10Y8/1	4.5PB3/7	2.5Y8/2	良好 緻密	口縁端部 呉須の口紅 内面 口縁部 石畳に「梅」「松」 見込 二重破線 斜線文 中心 二本の破線 花輪文 足付ハマ痕1カ所有り 外面 花帯 底部 圏線 高台 圏線 高台 内 蛇目状露胎 「一木」の書込み	1
86	染付輪花鉢		3.5		5Y8/2	2.5B3.5/1.5	5Y8/2	良好 緻密	内面 「中」の文字有り 外面 高台 畳付露胎 高台内「一」の書込み	1
87	印版手染付鉢				10Y8/1	4.5PB3/7		良好 緻密	口縁端部 狭い面があり羊歯文を描く 内面 羊歯・青海波文 外面 界線で分けられ花文 「一木」の書込み	1

88	染付碗				10Y8/1	7.5B4.5/2.5		柔らかい 緻密	内面 二重圏線 圏線「一木 46.11.23」の書込み 外面 二重圏線 縦縞(発色悪い)	1
89	染付碗				5GY8/1	2PB3/5		良好 緻密	内面 圏線 草文 底部 圏線 外面 圏線「一木 46.8.24」の書込み	1
90	染付腰折碗				5B7/1	4.5PB3/7	10YR8/3	良好 緻密	釉が青っぽい 口縁端部 内面 多重圏線(6本) 見込 蛇目状露胎 高台痕有り 中央に銘 外面 高台 畳付 露胎 高台内に「一木」の書込み	1
91	染付鉢				5GY8/1	2PB3/5		良好 緻密	口縁端部刻目有り 内面 四目菱 外面 圏線 波状文 二重圏線 交点のある網目文	1
92	白磁大型鉢				5Y7/2		7.5YR5/3	良好 緻密	内面 足付ハマの痕1箇所所有り 底部露胎	1
93	染付小片									2

計 98